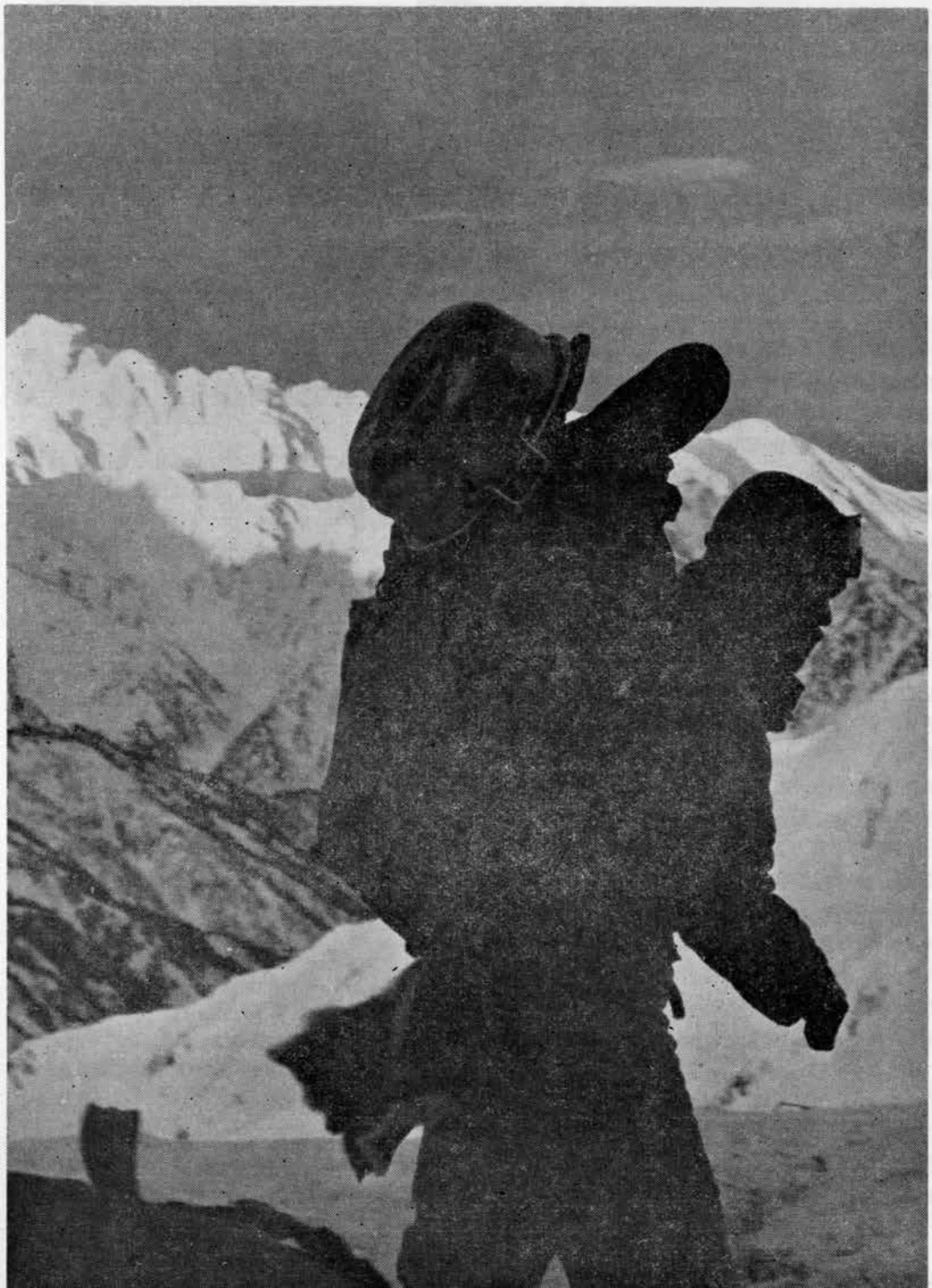
毎月1回25日発行　　第3種郵便物認可(昭和35年7月26日)　①

山と博物館

第8巻第1号　　1963年1月25日



出発の朝（唐松岳にて）

撮影　千葉彬司

大町山岳博物館

針ノ木自然園発足の新年に寄せる

羽田健三

蓮華岳(左)針ノ木岳

一 はじめに

御承知のように黒部ダムはいよいよ本年の6月に完工する。それと同時に籠川一帯も観光に開放されるので，大町市は所謂針ノ木自然園発足第一年目の重大なる新春を迎えた事になる。ところでその事務局たる大町山博は針ノ木自然園の実現と共に今までのような地域社会における経済上での消費者的立場から，物心二面に亘る生産者的立場に転じうるので，ここに意を新たにして一致団結，開園準備のために日夜忙殺されている次第である。

顧みれば創設以来今日までの10数年，赤字財政下にありながら，国内の他地方に例のない多額の市費を拠出されて山博を激励し続けて下さった大町市の歴代の教育委員会，理事者，議会並び一般市民の各位の暖かい御後援に対し，衷心より感謝申し上げると共に，彼岸を目前にするこの良き新年に当り，ここに山博の立場や針ノ木自然園の内容について改めて報じ，全市民各位の山博に対する倍増した御理解と御声援を頂き，私共関係者の強固なる後楯に為したいと念願する次第である。

二 山博の立場

終戦直後，われわれ関係者は〃町造り〃の一環として山博創設の業を始め，当時その設立趣旨を一般に配布した事があるが，その骨旨はただ今でも生きているので，ここに改めてそれをとり上げてみたい。

1，山岳文化

文化という概念は色々に理解されるが，一般的に〃動物と違う人間だけが形成しうるものであるが，同時にその成果である有形・無形の文化財が，人間をして人間たらしめるものとして人類社会に普遍的に見い出されるもの〃である。また文化とは〃特定の社会或は集団における歴史的・地理的環境と有形・無形の文化財とそれらの複合体全体からなる統合的全体としての生活様式である〃とされる。

従って大町地区の文化は特に雄大豪壮なる北アの岳麓にあると云う地理的環境を離れて形成されるものではなく，また更に黒部ダムの工事という天恵に伴い，岳人のみならず一般婦女子に対しても門戸がたやすく開かれている現状を無視するわけには行かない。これを一口に云うならば，大町地区の文化は山岳文化と云うことになってくる。

2，普遍的高文化

次に文化の語原のCultureは〃耕す〃と云うことであるから，ここでは〃くらし〃をそのまゝ文化とする低文化の立場をとらず，意識的に高めるという高文化の立場をとりたい。

従ってこの立場では文化はまた〝真理なる価値を追求する〟ことであるとされるが，その真理は更に真（学問分野）善（宗教，道徳分野）美（芸術分野）正（政治，経済分野）の諸価値に便宜的に分別されている。けれどもこれらの文化の諸領域は現実的には相互関連下にあり互に交錯，依存，規定し合いつつ構造的，機能的な関係をなしているので，大町地区の山岳に関する文化は，例えば経済分野のみならず，政治・学術・芸術・宗教道徳等の諸分野が一体となり，統合的全体として限りなく開発して行かねばならないのである。

そこでまた文化への集団員の参加という点からみても大町地区の文化は，後述するような民主社会の〝すべての人が人になる〟という目標からすべての市民によって支持される健康的な普遍的文化でなければならない。例えば有閑的階層のみが独占する所謂有閑的文化など，一部の市民のみを対象とする特殊的文化として開発されることは，いかにそれが経済上の価値が高くても厳にいましめねばならないのである。

3，精神作興

文化を全体としてはじめて社会学的考察の場にもたらしたのはドイツの所謂文化社会学であったが，その源をたどるとローマの哲学者キケロに遡ることができる。「肥沃な土地も耕さなければ実り豊かな畑となり得ないように，教養のない心も実り多くあることは出来ない。こ

の〝心の耕し〟は哲学である」といった彼の文化の把握はその後の文化概念の基盤になっている。この流れを汲むカントは「文化とは人間の自然的性能を理性的目的に適うように開発陶冶することであり，究極的には現象人としての人間を，本体人としての道徳的人格に適うように，人間における内外の自然を陶冶することである」とする。さらにジンメルは〝生の哲学〟を唱えたが「〝生〟から生れながらも〝生〟から独立して確固たる自主性と個有の論理とをもった文化ができる。そしてそこに〝生〟と〝文化〟との対立葛藤が生ずる」と云う。いづれにしても〝心の教養が文化である〟とみる点では等しくこれはドイツ文化哲学を貫流する高文化概念である。

従って大町地区の山岳文化の興隆をはかることは，山岳という独特の地理的環境下において，すべての市民が〝生〟から出来るだけ独立した〝精神〟の作興をなす事を意味している。

4，文化教育

教育とは，〝教育者が自らが自らの可能性をどこまでも発掘するという生活態度を終生に亘って持続することによって被教育者をして自らそれに化さしめる行為〟である。従って地域社会の文化の興隆に当っても最も重要なる働きを演ずるのはその教育主体者としての地域社会の文化意図である。

即ち何よりも先に地域社会全体に一つの文化意図があり，その意図を達成するために地域社会が教育委員を選出し，それらの委員が配下の学校，公民館，図書館，博物館などの教育機関を督励して，その目標の達成をはかるべきである。実に地域社会全体の文化ムードが決定的な教育基盤をなしているのである。即ち作物が育つためには土壌が必要であるように，地域社会における政治・経済・学術・宗教・道徳・芸術等の文化の諸領域において，人が十分育つためには，先づ地域社会全体にたくましい文化意図があり，次にその意図を達成するために，そこに相互信愛や相互扶助という道徳的人間関係の土壌がなければならないと云う事である。

ここに私が前節において地域社会の文化の興隆は地域社会の精神の作興に通ずると云った所以がある。

5，地方自治

このようにして地域社会ごとに独自の文化が興隆するならば，所謂地方の政治・経済・学術・芸術・道徳・宗教等の各分野の価値が中央のそれと等しくなるまでに高められるので，ここに始めて中央と地方，都会と田舎の格差が是正されることになる。従って中央集権化は自ら打破されて地方分権化がなされて地方自治が完全に遂行される日がやってくる。

この事は終戦後のわれわれが吾が国のビジョンとして目標にして来た〝すべての人が人になる〟という民主国家・文化国家が始めて達成されるので，地域社会の独自の文化の興隆をはかるということが，どれほど困難事であっても断乎として進めねばならないのである。

従って地域社会の文化意図を実現するための一社会教育機関である大町山博が，先づ自らが地域社会の人々に先がけて，自らの分である山岳に関する学術，芸術，道徳，経済等の諸分野の各価値の調和的発掘に微力を捧げて来ているのは全く当を得ていると申しても過言ではあるまい。

三　針ノ木自然園

上述のような立場にある大町山博は，従来の博物館に見られるように，チリに埋れて文化財の展示をただ守るという消極的な立場にはなく，積極的に登山者と共に山岳の現場に入り，そこで何よりも先に山の科学的知識をひろめ，次いでそれによって自然を愛し，それを守るという基盤を造成し，更にその上に立って山岳に関する文化の諸領域を耕すと云う自然教育の立場を創立以来の館是として来ている。

しかしながらこのような館是を充分に果すためには山岳の現場に山博に直結した野外博物館施設を設けることが欠くべからざる条件になっていた。ところが幸いにも昭和31年黒四ダムの工事が黒部に始められる事になったので，ただちに工事終了後のその辺一帯に所謂針ノ木自然園を構想し，爾来7ケ年県，国，学会と猛運動を続けていたが，漸く昨年厚生省の原案としてその構想がそのまゝ取り入れられることになった。

従ってこゝ1～2年の中に針ノ木自然園を実現できるのであるが，それによって大町山岳博物館は国の内外に未だ例のない自然教育センターとして山岳文化の興隆に十二分の力をそそげる事になったので，市民各位と共に同慶に堪えない所である。以下順を追ってその自然園事業について述べることにしたい。

1，自然教育の重要性

自然と人生：

ただ今人類は地上に君臨しており，この世の春を謳歌している。そして多くの人々はこの世を絶対的な無限のもののように錯覚しており，名利を追求する生存競争に余念がない。

けれども地球の歴史は地質時代的な大きなスケールの下にあるので，かつて君臨した大型爬虫類が滅び去ったと同じく，吾々が唯一つの寄り所としている人類の歴史すらもやがては消え去る運命にある。従ってこのように思索を進めるならば，人は生活に追われることをわずらはしく思い，虚無思想の虜となり，とどのつまりは世の中から逃避してくらす世捨人になってしまう。

然るに吾々は神でもなく動物でもなく，その二者を同時に住まわせている人間である。従って上のように一方だけの極端な生き方をするのは人間的ではないのである即ち人の人生の豊かさは有限と無限の調節を如何にする

かにかつつているのである。人はそこで人生を考える事が如何に困難事ではあっても真剣に思索を進め，すべての人が絶体矛盾した二者に真正面からぶつかり，ひとたびは虚無思想にまで落ちこみ，更にそれを止揚して改めて高次の精神的にゆとりのある現実生活を確立しなければならないのである。

古来幾多の先賢の例を待つまでもなく，人生をみつめこれを深く掘り下げるには大自然のまっただ中がよい。優れた大自然は有限と無限の対決の場に人を自らさそってくれるからである。

ところで現代人は一刻を争う文明生活に追い立てられており，極度に神経をすり減している。そして特に人口が急激に増大して来ている大都会に住む人々ほど，母なる大自然の懐ろに抱かれることを生理的に欲求し，疲れた神経をそこに医す行為を年に1～2回は欠く事ができなくなっている。この行為は人格の確立には大自然に入る事が契機になると云うことには無自覚ではあっても，誰でもが初発的な自然愛好心を具有している事を表明している。

従っていづれにしても人生にとって大自然が欠く事の出来ない存在である事は誰でも否定する事はできないのである。

自然の保護と利用：

ところが人類の経済生活は自然を利用する面が大きいので，今日のように経済規模が大発展するに伴い，不可避的に自然が大荒廃して来ているので，美しい大自然は極めて残り少くなって来ている。

従って現代人は今日ただ今より人類のみに与えられている英知によって「自然の保護と利用」の調和を見事にはかって行かねばならなくなって来ているのである。

即ちどのような資源でも無差別に略奪してしまうとその資源は枯渇してしまうように，自然美を訪ねる多くの人々を対象として成りたっている観光事業も，事業者が自然にマッチしない施設を乱増したり，或は入山者が自然を損う行為を放置していたのでは，その資源が荒廃した事になる。そしてひとたびその自然が荒廃してくると一度訪れた人は二度とやって来ない事になるので，利用者が激減する日が必ずやってくる。

従って観光事業を永続させ，日々隆昌ならしめるにはその資源である自然の保護管理や育成増殖の業を絶体欠く訳には行かないのである。

ところで自然の保護と利用の調和をはかるには，観光事業者と入山者との別なく，すべての人々の自然を愛する態度を何よりも先に高める事が必要である。即ちすべての人々の自然を愛する態度が高まるならば，この問題は抜本的に解決されてしまうのである。

これを教育の立場からに一口云うならば，自然教育が最も重要であると云うことになるのである。

自然教育：

富士山やアルプスでは到る処に紙クズやあき缶が散乱し，ちぎられた高山植物が捨てられており，折角の美観や自然が損はれている。また3000mの高山に登るのに平地と同じ服装で登り，予備食糧も携行せず，結局遭難を起して家族を悲しませ，地元の人々にも大きな迷惑をかけている。また更に各地のキャンプ地における青少年の非行も目に余るものがある。

これらは自然に親しみ方を知らず，また山の自然科学的な素養や道徳が低いことに発している。けれどもそれらを防ぐために例え現地に清掃員を置いたり，登山指導員をいくら増した所で，山の到る処に入山する人々が激増する現状では如何んともなしがたい。結局個々の人々の自然に対する態度を高めてもらう以外には手がないのである。

従って自然科学者を育てるというためにのみ自然教育の重要性を唱くのではなく，上述のようにすべての人々の中にある初発的な自然愛好心を守り育て，高邁なる人格を養う契機を与えて，精神的にゆとりを持ち，この世を愛情に満ちあふれたものにするために，徹底した自然に関する社会教育がすべての人々に対してなされねばならないのである。そしてこの教育がなされるならば上述の山岳での各種のみにくい問題は立ち所に解決されるのである。

即ち〃愛は知から生れる〃ので，自然教育が先づ目標とする自然愛は自然知から生れてくる。ところで自然を知るためには，外国語の書物を読むばあいに単語や熟語が分らなければ読めないように鳥獣虫魚や草木岩石などという単語や生態，地質という熟語を知らなければならない。またそれぞれの書物にはおのおのの独自性があるように，自然の山々谷々も個性的である。従っておのおのの山の個性をつかみ，それに応じた登高技術を学んで始めて登山行為がなされねばならないのである。

ところが一般の人々の自然科学の知識は驚くほど低いので，例えば書物のばあい内容は読まずに装幀だけを楽しみ，これを数多く書棚に蒐集して自慢するように，自然の通りいっぺんの景観だけを楽しみ，登った山々の数のレコードを競うだけに終っているのはどうかと思われる。このような人々の中に自然を汚し損い且つ遭難を起す例が極めて多いのである。

一体自然を知り，それによって自然を愛する態度が真底より出来ているならば，平地から山に持ち上げたもので紙クズ，あき缶などのように不用になったものは，再び平地に持ち帰るか，現地で焼却したりして後仕末をよくしなければならない。また許可を得て始めて採集することのできる貴重な自然文化財である高山植物をむやみやたらに抜いて持ち帰ったり，ちぎり捨てるような遵法精神に反する行為などをするものではないし，野生生物

をみたらすぐにいちめたり，抜いたりしたいという原始人的な感覚に基づく衝動はまつ先に払拭されており，大自然を楽しむにはすべて自然観察により，絶体に生物を手にしないと云う近代的な感覚が形成されていなければならない。

即ち自然教育を要約してみるならば，先づ自然知を高める事によって遭難を防止し，自然愛を高め，次に自然愛が高まる事によって自然保護の重要性を覚り，自然に親しむようになり，最后にはそれらの過程を通して人生を深く考える契機をつかみ立派な人格を確立し，それと共にその人々の山岳に関するあらゆる文化領域での開拓がなされるという教育なのである。

2，山の教室

山博が自然教育を果すために連続的に実施する〃山の教室〃を運営するためには各種の施設を自然園内に設けねばならない。

山博分館：

園内の扇のカナメに当る所謂扇沢集団施設地区には第一に山博の分館を設置する。分館は山岳模型を始めとし植生地図，地質図，ナダレ地図及び各種標本，生態写真山の写真や絵画，スライド等を活用して動植物，地質鉱物，気象，民俗など，自然園内の自然人文に亘る一際の部門の展示物によって埋め，一眼で自然園が分るように紹介する。

附属動植物園：

園内に産する特殊な生物の動植物園即ち雷鳥，カモシカ，オコジヨ，イヌワシ，サンショウウオ，イワナ等の動物園及びコマクサを始めとする珍稀な高山植物や樹木などの生態標本園を同じく扇沢地区に設ける。

生態園：

爺ケ岳山頂に雷鳥，鳴沢岳中麓にカモシカ，白沢出合にニホンザルを，蓮華岳山頂にはコマクサの各生態園を設ける。生態園とはカコイを造らず，それらの動植物を自然の現場に保護増殖して利用者に供する施設であるがニホンザルを除けば国の内外に始めてのもので針ノ木自然園で最も重要な施設である。

自然観察路：

自然園内には天然に豊富な各種の自然教育教材を産しているが，〃山の教室〃を進めるためには自然観察路を整備して，それらを十分に活用できるようにする必要がある。ところで御承知のように園内の登山路は例えば針ノ木登山路のように，すべて上・中級向きであるため，婦女子でも登れる初級向きのコースをどうしても新たに設けねばならない。

したがってこの地帯では珍しく山頂が広大である爺ケ岳に対し，扇沢の出合いより尾根スヂを通り，平担な巾2m，距離約4Kmの登山路を新設し，これをこの地帯での自然観察のメインストリートになしたい。また蓮華山頂から扇沢集団施設地区に直降する中級向きのルートも，その間に植物群落学上の珍奇な生態的事実が存在するので開かねばならない。

このように既設・新設の各登山路は，そのまゝ自然観察路として整備し，すべての入山者の利用に供しうるようにしたい。即ち各ルール上の適所に，ルート上の生態地質を図版にした説明板を，またルート上の随所に出現する動植物には種名板を設置する。

青少年団体宿舎：

〃山の教室〃は連続的に実施するので，扇沢集団施設地区には，一日約600人を収容し，林間学校を兼ね，更に附近にキャンプファイヤー場を含むキャンプ実習場を併設する青少年向きの団体宿舎を設置する。

またこれと共に針ノ木小屋，種池小屋，冷池小屋等の私立の既設の山小屋もおのおの約300人を新たに収容できるように拡充する必要がある。また更に木崎湖畔，犬ノ窪の新温泉郷には約300人収容の国民宿舎等をそれぞれ設置しておく必要がある。

カリキユラム

山の教室は学生，生徒，一般を問わず，また地元や県内外の別なく，更にまた季節を問わず参加者を募集して行われ，実習期間は受講者の要望によって日帰りから1週間に亘るが，その日数に応じ，また季節に従い，また更に受講者の質によって様々の〃教室〃やカリキユラムが用意されている。

〃山の教室〃は登山教室を主体とするが，その他春の草を訪ねる会，鳥の声を聞く会，紅葉をみる会などからスキー教室まで様々なものが考えられる。

なおそれらの〃教室〃でのカリキュラムをとりまとめてみると次のように整理することができる。一つには山での生活技術や自然に親しむ際の道徳に関するものでありリーダーシップを含むパーティのくみ方，自炊法，キャンピング法，登山用具の使用法など登山技術に関するもの，ゴミの持ち帰りや自然物の保護を含む山の道徳，キャンプファイヤーを含み山の歌やフォークダンス等を取り入れた山での健康的なリクレーション法等である。

また一つには山の自然科学的な知識に関するもので，星座，山の気象，岩石及び地質，動植物及び生態等，或いは冬期にはスキー技術や氷雪及びナダレについての科学的知識等である。

四　自然園の経済的効果

針ノ木自然園の施設はひとり山博が〃山の教室〃を進めるに必要な上述のような施設ばかりではなく，その他に一般利用者に対する交通事業やホテルなどの施設も含まれ厚生省ではその総額を2億数千万円とふんでいる。国際的な大観光地と化する黒部一帯にマッチして赤字財政下にある大町市がそれを実現する事は，とうてい不可能であるとして心配する人々が多いが，それも無理から

ぬ話である。したがってこの機会に針ノ木自然園の事業主体やその経済効果についてふれてみたい。

1，工場誘致方式

厚生省は当初富山側のダムの周辺だけを集団施設地区として認可し，そこに黒部観光を集中し，大町側にはバスのターミナルを造るという単独施設地区のみを認めていた。けれどもその後市や県の運動により針ノ木自然園の構想を取り上げ，今日のような扇沢集団施設地区が認可になったのである。

ところで所謂針ノ木自然園の全体の事業主体は既に述べた事があるように，厚生省や県公社の指導下にある大町市にある事は論をまたないが，個々の施設の事業主体については多様である。

これらの事業の中先づ第一に山博分館や青少年団体ハウス，駐車場，動植物園観察路等の公共施設の事業主体は既に本誌の6巻11号の特集号において述べたように国と公社にある。次にそれらを除いた残りの交通事業やホテル・一般旅館，休憩場，食堂，売店等の事業主体は工場誘致方式によると考えれば分り易い。

即ち市が敷地を増成し，そこに工場を誘致してそれを育成し，地元の人々の新たなる職場を増したり，地元の一般経済をうるおし，更に豊かに市税を工場から徴収するのと軌を一にするのである。もっともこのばあい，これらの個々の事業主体者や青少年団体ハウスの運営者を選ぶには，第一には地元の大町市民の中の個人や有志団体を次に地元になければ県内外に選択する順序だけは守らねばならない。

2，〃山の教室〃の経済効果

次に山博が針ノ木自然園に〝山の教室〃を運営するばあいの地元に対する経済効果をみてみよう。〝山の教室〃は国や県から依頼される上述の各施設をフルに使って特に夏の2ケ月のシーズンには連日新しく600名づつを次ぎ次ぎに受け入れるが，これらの受講者の受講期間は1～7日の間に亘り平均4日は自然園内や大町市内に滞留する事になる。即ち大町地区に1日2400名が生活することになるので大町地区に必要とするこれらの人々の生活物資だけでも多大の量に上ってくる。しかも2400名の中，上述のように自然園内の青少年団体宿舎に600名，針ノ木，種池，冷池の各山小屋に計900名，犬ノ窪新温泉と木崎湖畔の国民宿舎に計600名とすると，残りの300名の宿舎が不可能になる。そこでこの300名の宿泊は大町市内の各旅館にゆだねられるように，受講期間の中の1日は新しい形式による高山動物園を持つ大町山博の本館や木崎湖並に居谷里湿原での自然探求に費すように〃山の教室〃のカリキュラムを既に編成ずみである。

このようにして観光事業面から見るならば大町山博の運営する〝山の教室〃だけでも地元に直接・間接的に大きな利益をもたらすのである。従って大町地区全体に多くの教化施設があるほど〃山の教室〃を拡大強化して地元をうるおすので，大町地区に自然，人文をとわず文化財を保護育成する事が極めて重要なことになってくる。ここに大町山博が既に木崎湖に鹿島谷にスキー場〝白鳥の湖〃を造成する業を始めており，また居谷里地区を天然記念物として保護する運動等を進めている所以がある

3，山博の経済上の自立

次ぎに山博は扇沢分館の観覧料と〝山の教室〃の指導費によって，少く共本館，分館，並びに〝山の教室〃の運営，維持費などがたやすく生みだせる。これによって山博は地方財政下にありながら，地方経済に負担を及ぼさずに，国家的な社会教育を推進できるので，関係者の喜びはひとしお大きいものがある。

四むすび

紙面の都合でこれ以上述べられないのは誠に残念であるただここに一つ加えたいのは上述のように針ノ木自然園は本来教化施設ではあるが，同時に観光事業施設であるということである。黒部ダムはそのまゝ巨大な観光資源となるし，雷鳥，カモシカ，サルの生態園も同様に多く一般のの人々を引きつけよう。更に大町ルートは長野～富山の間の重要な交通路に化するのである。

ただ大町市が注意しなくてはならないのは，観光客がす通りすることを出来るだけくい止める施設を持たねばならぬということである。その一つとして山博の〃山の教室〃は大きな貢献をするが，一般人に対しては犬ノ窪の新温泉郷が実現するので，これも大きく役立つだろう

いよいよ来年の10月に東京オリンピックが開かれる。全く月日の経つのは早いものである。従って黒部観光もまだまだ先の話だと考えていたのでは大変である。今年来年で勝負がついてしまうのである。ここ1～2年は全市民が北アルプスを常にみつめ，郷土の山々を郷土人の生活の中に如何に役立てるかを真剣に考えねばならないと思う。要するに全市民は一致団結して外部に当り千載一隅の好機を生かし大町市の大躍進を遂げられるよう，ここに新春を迎えるに当り衷心より切望する次第である

（日本生態学会自然保護委員，長野県文化財専門委員，大町山博顧問，信大助教授，理博）

長野県 安曇地方の民話（その三）

胡麻・胡爪・犬・鶏と氏神様

青木　治

中島（会染），神出（広津），細野（松川），借馬（平），松川の氏神様は胡麻の木で目を突き目を潰し，大町の若一王子の神様は胡麻が目に入り盲目になり，清水（常盤）の産土様は胡麻畑に落馬して負傷した。中土の氏神様は胡爪の刺で目を突いて目を潰したといい，これがためこれ等の部落ではどこの家でも胡麻や胡爪を作らなかったという。こういう話はこの地方ばかりではなく各地にある。これは今は迷信として簡単にほうむり去られているが，何れもその出現の当時は神と人間の関係を規定する意味を持つ話として，面白い由来があっだであろうと考えられる。

これ等の話と同様犬と鶏を禁忌する話が木崎湖畔の景勝地森城にちなんである。森城は山田城ともいい，大町市附近の仁科荘を支配した仁科氏の一居城でもあった。仁科盛遠の死後この地が一時北条氏の家人行野谷（こうのや）政治の領するところとなった。しかし領民は彼の悪政にあいそをつかしてた，その機に乗じ盛遠の遺臣安倍五郎丸貞高は城を襲って政治を殺し自から城主となり安倍姓仁科氏を称した。しかるにかねて東山の山中大野田城にあって密かに仁科地方計略を企てゝいた木曽義仲の次男義重は貞高の隙を見て1233年急に城に迫った，貞高は不意をつかれ城兵も少なかったので防ぐことが出来づ身をもって薄やみの夜明方に湖底をくぐって（または泳いだともいうし，氷上を走ったともいう）北方に逃れようとした，ところが平生彼が可愛がって飼育していた鶏と犬が五郎丸貞高を慕って後を追ったため敵にさとられ彼は湖の北岸海の口に上陸しようとしたところを捕えられて殺されてしまった。その後木曽義重は鎌倉将軍頼経に注進し仁科地方の領主になったが，その年の六月に大雪が降ったり種々の異度がおこったり，怪異がつぎつぎ続くので，土地の人々は五郎丸の亡霊の祟りだとし，彼の死骸を埋めた海の口の湖岸の塚の上にお宮を建て安部五郎丸明神として祀つたので，それから異変は起らなかったという。又彼の上陸したところを安倍渡という。これから以後森部落では，犬と鶏を飼わないことにして彼の冥福を祈ったという。又鶏の攀忌は須沼（常盤）にもあった。氏神様が嫌いだから鶏を飼うと祟があるといって飼わなかった。これ等の攀忌は今はどこの部落でも合理主義的な現代人生活の立場から破っている。

（大町高校教諭）

カワセミ

長沢修介

先頃の大雪の降った次の朝，丁度出勤時刻が早かったので誰も歩いてない道を自分の足跡のみ，つけて急いでいる時，一羽のシメが人家の軒から飛び立つのを見た。森林や樹上生活が主なこの鳥が吹雪と飢と戦いながら一夜を危険な人家の軒で過したものと思われる。今日はぜひ彼に多くの食物が得られることを願わずにはいられなかった。雪の日の小鳥の生活で思い出したのがカワセミである。カワセミは昔からヒスイとも言われ盛夏の頃，涼しさを連想させる鳥として良く絵にも描かれているが冬季はあまりその存在をみとめない。そんな冬の日には不向の鳥の一対に小雪の降る日出合った。その日は明科町に用事があり出掛た際，水産試験場を見せてもらったセグロセキレイやキセキレイが堀辺で虫を探して飛び廻っているのをながめていると聞いたことのある声ではあるが少声ではっきり聞きとれない鳥の鳴き声を耳にしそっと近寄って見るとカワセミが二羽何か少声で話しながら堀辺のセメントの上に向い合っていた。夏の木崎湖や中綱湖などには多くその姿を見かけるが降雪の頃よりすっかり姿を消してしまう。夏には目のさめるような鮮かなコバルト色が水面に映え，とても粋な鳥に思われたが冬枯れの中に見ると何か不向きな鳥であると思った。そんな目で見られているとも知らず魚を見つけた一羽がザブンと水に飛び込み魚わくわえて川下の方へ飛んで行った。

寒風

超短波無線機

厳冬の北アルプスへ数カ月に渡って5人の調査隊を送っておくという本館のライョウ調査は南極観測なみの困難をともなう大変な仕事である。基地の種池小屋と本館の間を無線電話で連絡したいと考えているが，市販されているトランシーバ（市民ラジオ）では出力が弱すぎてとどかない5ワットの簡易無線なら良さそうであるが，施設費が70万円〜80万円かかるとあって，ちょっと手が出ない。なんとかうまい方法はないものか？

（オコジョ）

暖流

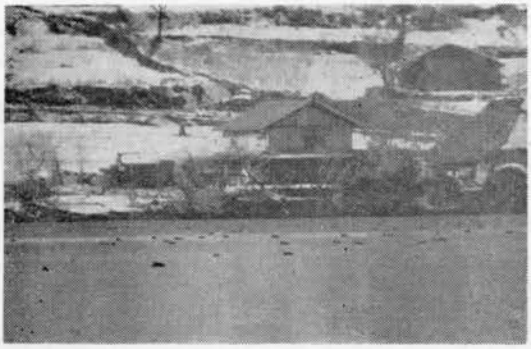
博物館だより

12月17日　かねて陳情中であった冬期ライチョウ調査，カモシカ増殖等の助成金は12月県議会で80万円が決定。

12月26日　山岳博物館協議会，観光審議会合同会議は市役所議場で行なわれ，扇沢地域集団施設，冬期ライチョウ調査等が協議された。

12月27日　カモシカ放養舎のブロック建て休憩舎完成

12月30日　木崎湖は禁猟区になって2年，今では岸近くまで鴨が来て休んでいる。写真（右）



資料寄贈

大多摩観光情報No16　大多摩観光連盟，長岡市立科学博物館研究報告No 1　長岡市立科学博物館，箱根博物第1号　箱根博物会，富士国立公園博物館研究報告No 6　富士国立公園博物館，自然科学と博物館No28 7—8　国立科学博物館，上田城　上田市立博物館，教育長野No 61，10—11　北安地方事務所，信州緑化情報No32　北安地方事務所，国立公園 No143，144　国立公園協会金沢文庫研究 No72　金沢文庫，四つばしNo61，11　大阪市立電気科学館，山と渓谷No273，274 山と渓谷社，ハイカーNo73　山と渓谷社，5年の学習61—11　6年の学習61—11　学習研究社，全国スキーゲレンデ案内　実業の日本社，県民衛生の動向　長野県衛生部，高校生の登山　丸山彰，地質ニュースNo87　地質調査所，お濠の白鳥　皇居外苑保存会，登攀No261　東京緑山岳会　稲火No298，299　山小屋クラブ，私たちの自然No 7　日本鳥類保護連盟，月報No1　日本鳥類保護連盟，研究報告（人文）No 5（自然）No 6　横須賀市立博物館，（敬称略）

アンケートから

1962年入館者に対して種々の問題についてアンケートを求めた。その中の1つ「山岳博物館に何を望むか」の項の中から1部をひろって見た。私たち館員もこれを参考にしつつ仕事を進めて行くつもりです。また他にお気づきの点がありましたら，山岳博物館宛お知らせ下さいます様お願いいたします。（調査人員 200名で展示室の一部に無人机を用意し気軽に書いていただいた）

- カモシカは実物を見る機会が少ないのでもっと宣伝し，少しでも多くの人に見てもらったら。下の動物園の動物をもう少しなんとかしていただけません。あれでは可愛そうです。——東京都　24才　女性
- 自然動物園の早期実現　諏訪市　24才　男性
- 専門的に調べる人のために気軽に入れる資料室や資料がほしい。　東京都　30才　男性
- 休憩室がほしい。資料を判り易く1つ位づつを全国に報道してほしい。　埼玉県　23才　男性
- 展示してある資料の解説書があったら更に興味深い　山形県　25才　男性
- 良く展示してあるが，余り金がかかっているように見えない。もう少しデラックスな展示があっても良い。　神奈川県　19才　男性
- 生きた動物とハク製が一度に見られたらすばらしいと思います。　石川県　25才　女性
- こちらに来てはじめて博物館のあるのを知って，見に来て良かったと思う。PRがたりない。　東京都　18才　男性
- テープコーダーを使用して鳥の声などを聞かせてほしい。　東京都　19才　女性

植物標本は色が変るので原色写真をつけてほしい。　千葉県　33才　男性

もう少し町の方に作ったら良いと思ったが，山が良く見えるのでよい。　兵庫県　9才　男性

以上がアンケートの一部である。

この他に建物も古く床がなって気分が悪いから早く鉄筋コンクリートにした方が良い。（25%）全国的に宣伝が行き届いていないからPRせよ。（30%）の2点が多かった。

お願い　本紙の購読ご希望の方は**1カ年購読料300円（郵送料とも）**を現金書留または**郵便為替，郵便切手で長野県大町市，大町山岳博物館**あてご送金下さい。　**大町山岳博物館**

山と博物館 第8巻第 1 号 1963年1月25日発行
発行所　長野県大町市TEL（大町）211
大町山岳博物館
印刷所　大町市上仲町
信州印刷大町工場